# 環境共生住宅建設推進事業
## （いわて環境共生住宅「地熱利用の家」）

**受賞機関　岩手県住宅供給公社**

### はじめに

このモデル住宅は、県の中央にある紫波郡の核として発展した、紫波町のアヴニール紫波に建設している。アヴニール紫波は当公社が新駅設置に併せて開発した鉄道一体型宅地開発で、電線類地中化等環境に配慮した団地である。「地熱利用の家」はゼロエネルギーをめざし、自然エネルギーの象徴である地熱ヒートポンプを設置していることから付けた名前である。

### 施設概要

建物規模：木造２階建て・延床面積154.81㎡
敷地面積：283.23㎡
工事期間：平成14年１月11日～３月29日
総工事費：3,700万円
展示期間：平成14年５月30日から５年間

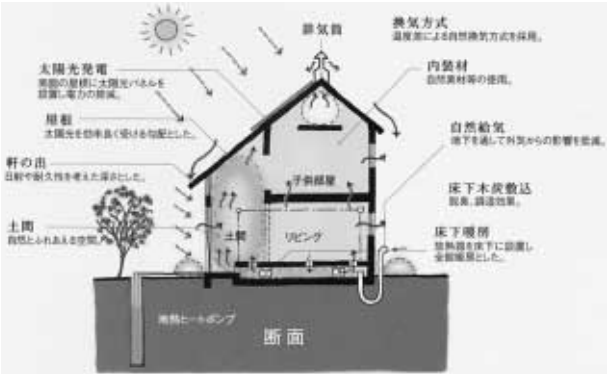
### 環境共生モデル住宅の目的

環境共生への対応は近年の社会的要請であり、建築の分野でも$CO_2$の削減やエネルギー消費の削減、未利用エネルギーの活用などが求められている。

このモデル住宅は、県が定めた「いわて環境共生住宅技術基準」の普及を図ることと実物モデル住宅を通して住情報の提供を行うものである。

### 環境共生モデル住宅の概要

このモデル住宅は、地熱ヒートポンプ、太陽光発電等自然エネルギーの活用。高断熱による省エネルギーの向上、シックハウス対策等による健康・快適・安全。その他資源の有効利用や地域に調和した環境




いわて環境共生住宅「地熱利用の家」の概要図

外観

玄関ベンチ

2階廊下

吹抜

機械室

づくりに配慮している。基本テーマは次の通り。

○環境やひとにやさしい住いづくり・引き継がれた日本の現風景やこころの風景から21世紀を考えたMINNKA

囲炉裏を中心とした居間と土間空間を再現。木材、珪藻土、炭等自然素材等の使用。バリアフリー化。家族構成の変化に対応可能な間取りの自由性と主要構造部に太材の使用や経年変化の少ない自然材の使用。軒の出を1.3mとし、雨がかりを防止する等耐久性を考慮した持続可能な構造としている。

○自然を楽しみ四季の変化に順応する家

土間や縁側を介して庭など外部空間とのつながりを考慮。芝生ブロック、木レンガによる駐車スペース、アプローチの緑化や雨水の地下浸透、散水や洗車のための雨水タンクの設置や落雪スペースの確保。

○ゼロエネルギー住宅をめざして

地熱ヒートポンプによる冷暖房、給湯システムや太陽光発電システム、自然計画換気システムの採用と併せて、生ゴミ処理機の設置によるコンポストを利用した家庭菜園や、環境にやさしい羊毛系断熱材の使用により、地球環境の負荷の軽減を実現するものである。また、平成15年度は県の支援により、太陽光発電設備の増設と風力発電設備を新たに設置しゼロエネルギー住宅をめざすこととしている。